



夏の星空観望会

8月10日(月)

旧大葛小学校を会場に夏の星空観望会が開かれ、参加者や関係者約30人が星の観察を楽しみました。比内公民館と大館郷土博物館の共催で、講師には弘前市在住の星空案内人、小関英明さんを迎えました。最初にスクリーンを使って、星を見る心構えや季節の星座を確認し、実際の星空でどのようにして星を探すのかを教えてもらい、いざ屋上に上がって星を探します。当日は雲間に星が現れる微妙な天候で、明るい星を見つけては星座の位置を確認するのですが、肝心の時に雲に隠れるなど、悪戦苦闘。それでも時折流れ星や人工衛星が現れて、参加者から歓声が上がります。天文台の大型望遠鏡でも星を追いますが、雲に阻まれ難航しました。それでも大きな望遠鏡に触れることがない子供たちは興味津々。

最後に小関さんは、宇宙のことはまだまだ分からないことだらけなので、皆さんが発見者になるチャンスがあるはず。興味を持って取り組んでくれば、いつか新しい発見があるかもしれないと、子供たちの好奇心に期待していました。



暗さに眼を慣らすことが大事



いろんな望遠鏡があります



大型の望遠鏡で星を追いますが…



季節の星座が星を探すヒントに

大葛地区盆踊りカラオケ花火大会

8月13日(木)/旧大葛小学校グラウンド



大葛地区恒例の盆踊り大会が開かれました。大葛地区青若会（畠山鉄男会長）の主催で、大葛の将来を考える会や分館、地区町内会、比内地鶏関連企業などが後押しする、地域を挙げての一大イベントになっています。

この日はお盆に里帰りした人たちも沢山参加し、可愛い孫の姿に喜ぶ祖父母、再会を喜ぶ若者たち、久しぶりの盆踊りを満喫する老若男女がたくさんの笑顔を見せていました。

伝統芸能・大葛金山太鼓は3年前に幕を下ろしましたが、デモンストレーションと体験会は今年も行いました。好天に恵まれ星空の下100発以上の花火が打ち上げられました。



伝統の金山太鼓を披露

扇田市川ハッタギ祭り

8月17日(月)/扇田神明社



たくさんの踊り手たち

市川町内会が2022年にハッタギ踊りを復活させてから、最も多い人出となりました。かつてこの地を支配していた浅利氏が、太鼓の音で害虫を追い払い、地域を凶作から救ったという説があり、豊作を祈る踊りとして伝わったという。

太鼓を囲んで輪を作り、ハッタギ（バッタ）のように飛び跳ねる特徴的な踊りを楽しみました。この日は扇田小学校和太鼓クラブの児童たちも参加し、練習の成果を披露していました。

編集後記

今更ながら、お祭りや伝統芸能が地域の人々をつなぐ大事な財産なんだと改めて認識しました。遠く故郷を離れていた人たちが、子や孫を連れて盆踊りに集まっている姿を見ると、やっぱりふるさとを無くしたくないという思いを感じます。そんな思いが主催する人たちのやる気を後押ししているに違いありません。人口減少で存続が心配される故郷ですが、伝統芸能と共に残してほしいものです。ガンバレふるさとの祭り。

コウライザーも参加